

平成26年10月31日（金）

愛知県 在宅医療連携拠点推進事業 中間報告会

愛知県 自治研修所 8階 講堂



津島市 在宅医療連携拠点推進事業 中間報告会

津島市健康福祉部高齢介護課 長寿福祉グループ

医療相談員 福谷 大助

地域医療の再生から在宅医療の取組みへ



- 2007年 津島市民病院の存続の危機(医師不足、一部診療科休止、機能低下)
- 2008年 3月 津島市民病院改革プランの策定
- 2008年10月 健康・福祉・医療横断会議の発足(関係部課で地域医療を考える)
- 2009年10月 津島市・海部医師会で、定点方式で平日夜間の一次救急診療の開始
- 2010年 地域医療と健康生活を守るためのシンポジウム(海部医療圏域)
- 2011年 6月 「あんしんネットつしま」の発足(津島市医師会と包括センター主導)

- 2012年 4月 在宅医療連携拠点事業スタート(在宅医療連携Gを新設)
- 2012年 7月 市内の医療・介護関係機関へ在宅医療アンケート調査の実施
- 2013年 4月 津島市在宅医療連携推進協議会の発足
- 2013年 7月 在宅医療支援病床の運用開始
- 2013年10月 電子連絡帳システムの運用開始、ICTワーキングの開始
- 2014年 1月 津島市在宅医療連携拠点推進事業スタート
- 2014年 2月 在宅医療支援病床ワーキングと地域支え合いワーキングの開始
- 2014年 4月 在宅医療連携Gから長寿福祉Gへ編入(地域包括ケアに向けて)

津島市民病院の危機から、地域医療再生が津島市の最大の課題となった。急性期病院の適正利用が重要であり、かかりつけ医機能・病診連携の強化や地域住民への啓発、医師確保を進め、津島市民病院の機能は回復してきた。こうした取り組みの中で、市主導による「在宅医療連携拠点事業」をスタートした。



在宅医療連携拠点事業（2012年4月～2013年3月）

健康福祉部 高齢介護課 在宅医療連携グループを新設

事務職員	1名
看護師・介護支援専門員	1名
社会福祉士・介護支援専門員	1名

在宅医療連携拠点推進事業（2014年1月～2015年3月）

～地域包括ケアの確立に向けた取組みへ～

2014年4月 在宅医療連携G⇒長寿福祉G

事務職員	1名
保健師	2名
社会福祉士・介護支援専門員	1名

市町村における担当組織について

事務局 高齢介護課 長寿福祉グループ

実務担当者 4名（医療相談員1名、保健師2名、主事1名）

現状

医療相談員が主要な業務をこなしている状況であり、他の3名は医療相談員の指示を仰ぎながら業務の補助として行動している。

課内のマンパワーの不足により、全員が他の業務も兼任している状態。個々に主要業務を抱えており、なかなか在宅医療業務について踏み込み切れない。

解決策・今後の方策

実務状況については簡単に変更はできないが、情報の並列化は適時行っていくべきである。進捗状況などは担当者が全員ある程度把握している状態でなければ、今後の人材配置の変更に際して混乱が発生することは必至である。

業務上で医療・介護関係者とのやり取りや、専門的な知識を求められるシーンが多いため、地域の課題や社会資源を把握し、関係機関との連携構築にその専門性を発揮できるスタッフを配置することが重要である。

参考

これから、医療と介護の連携推進に取り組む市町村については、国立長寿医療研究センター制作の「在宅医療・介護連携のための市町村ハンドブック」が参考となります。

※ 国立長寿医療研究センター 在宅連携医療部のHPよりダウンロード可



アンケート調査の実施

目的：在宅医療のニーズ・課題・資源の把握

調査対象：市内医療機関 薬局
訪問看護ステーション
介護保険事業所

計 221事業所 278名

調査時期：2012年7月～8月

調査方法：郵送 ⇒ 訪問回収

配布数：278件

回収率：93.5%

郵送の回収は、回収率が低くなる!!
多くの人の意見や課題を発見できた

津島市公式ホームページからダウンロード・印刷可能

地域のニーズ・課題・資源の把握が重要

津島市

在宅医療連携拠点事業を進めていくにあたり、まずは市内における「在宅医療の実情や課題、資源の量」を拠点事業を行う職員が把握することが必要であると考えた。市内には、200を超える医療・介護関係事業所が存在しており、医療と介護の両者から、在宅医療・介護に関する情報を収集したいと考え、アンケート調査を実施することとなった。

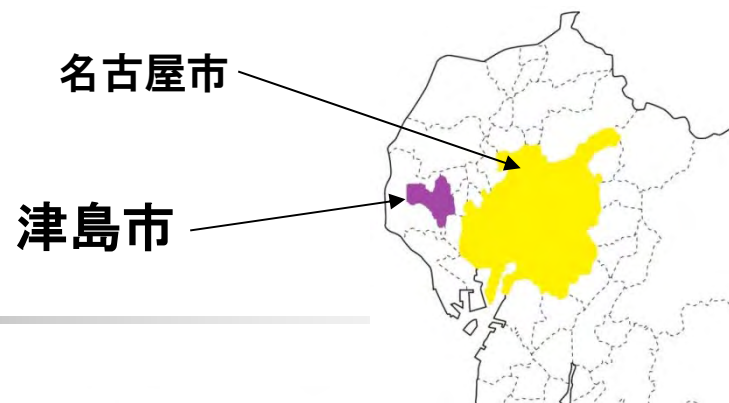
アンケートは、全国で先進的な取り組みを行っている医療機関や行政機関等が過去に実施したアンケート内容を参考としたり、収集したい内容を拠点職員で協議を重ねたうえで作成・実施した。アンケート調査を行うと、回収率が30～50%程となることが多いことから、事業所を訪問してアンケート用紙を回収することで、回収率を上げることに成功した。結果として、比較的正確な地域のニーズ・課題・資源量を把握することができ、優先して取り組むべき課題が明らかとなった。

参考

人口・高齢化率・財政状況・交通網・主要産業・地理的条件が市町村によって異なるように、地域の課題や資源量も差があって当然のことである。市町村が取り組む在宅医療や地域包括ケアの推進は、その地域特性を把握したうえで、その地域に必要な課題を解決していくことが重要である。

津島市は こんなまち

津島市の概要



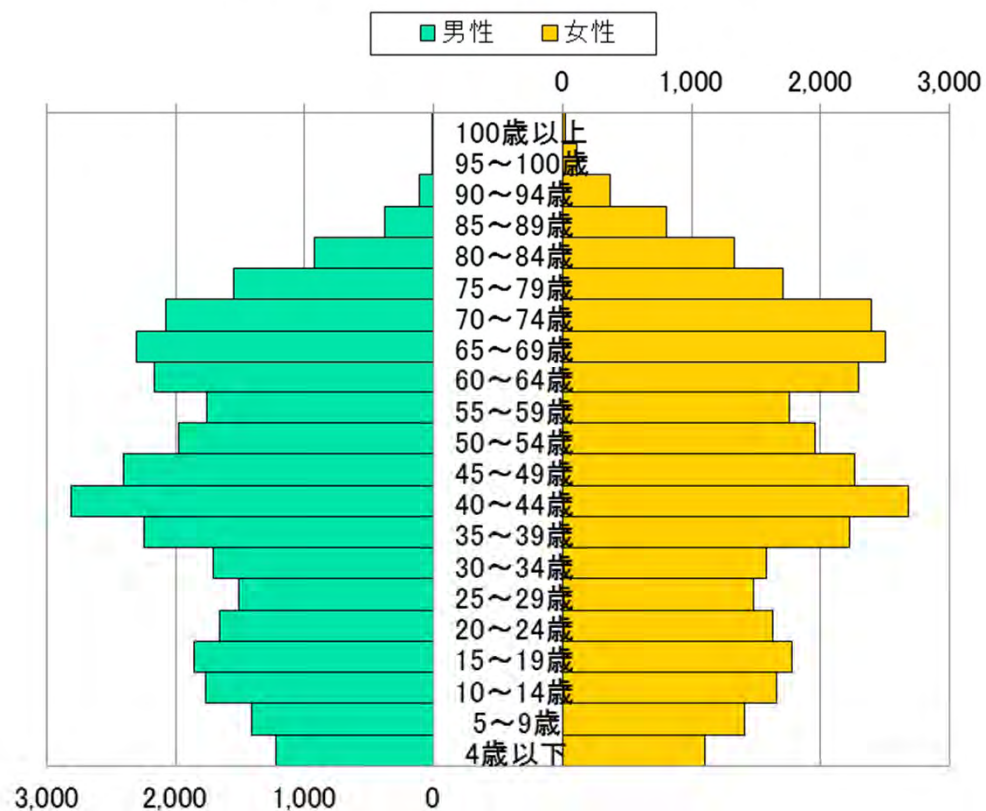
面積：25.08km²

人口：64,920人

世帯数：25,567世帯
(H26年3月31日)

高齢化率：25.6%
(H26年3月31日)

人口ピラミッド(H26.4.1現在)



津島市は こんなまち

津島市の社会資源

医療機関

平成26年4月1日時点

津島市医師会

4 1

津島市歯科医師会

3 4

津島海部薬剤師会

3 4

訪問看護ステーション

1

津島市民病院 440床（回復期・緩和ケア）19診療科

療養型病院 2

回復期リハ病院 1

在宅療養支援

・診療所 4

・病院 0

・歯科診療所 0

津島市は こんなまち

津島市の社会資源

介護サービス事業所

平成26年4月1日時点

居宅介護支援事業所	21	福祉用具貸与	3
地域包括支援センター	3	特定施設入居者生活介護	2
訪問介護	14	小規模多機能型居宅介護	1
訪問入浴介護	1	認知症対応型共同生活介護	3
訪問リハビリテーション	2	介護老人福祉施設	3
訪問看護	1	介護老人保健施設	5
通所介護	23	介護療養型医療施設	2
通所リハビリテーション	8	住宅型有料老人ホーム	4
短期入所生活介護	5	サービス付き高齢者向け住宅	1
短期入所療養介護	7	養護老人ホーム	1

津島市在宅医療 資源マップ

- * 内科 41件
(総合病院1件含む)
- * 歯科 34件
- * 薬局 34件
- * 訪問看護S 1件
- * 介護事業所104件
(包括3、居宅21、訪問介護14、DS23、DC8、SS12(生活5、療養7)、福祉用具3、訪問入浴1、訪問リハ2、特定施設2、GH3、小規模多機能1、特養3、老健6、介護療養型2)

【災害時】

- ・一次避難所 8か所
- ・福祉避難所 11か所

N : 訪問看護ステーション
H : 市民病院

医療機関 (内科)	医療機関 (歯科)	薬局	介護 事業所	一次 避難所	福祉 避難所
■	■	■	■	●	■

* □型内に数字がある場合は、1か所に複数(居宅・訪問・デイなど)の事業所があることを示す。但し、避難所内の図形内の数字は、避難所の番号を示す。

